

まとめレポート

～運用環境振り返り編～

国内株式および国内債券市場 2019年 4月～6月

運用先市場の状況

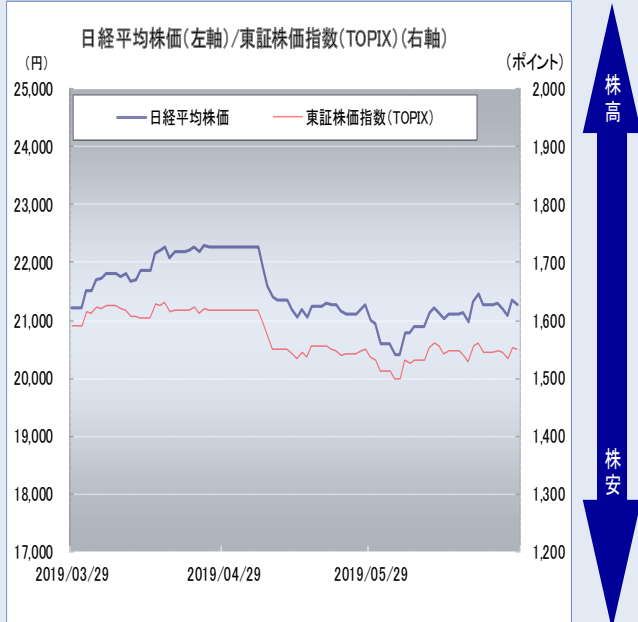
作成基準日 2019年6月28日

○国内市場

・株式市場

【コメント】

国内株式について、日経平均株価は小幅上昇、東証株価指数(TOPIX)は下落しました。
 4月は、中国の景気改善期待や、米中通商協議の進展期待により上昇しましたが、国内企業の決算発表の本格化や大型連休を控え、上値の重い展開となりました。
 5月は、米国の対中間税引上げ、中国通信機器大手への輸出禁止の発表などによる米中貿易摩擦への懸念が株式市場の下押し材料となりました。また、下旬にトランプ大統領がメキシコからの全輸入製品に関税を課すと表明したことなどで、更に下落しました。
 6月は、パウエルFRB(米連邦準備制度理事会)議長の発言やFOMC(米連邦公開市場委員会)を受けて米国の利下げ期待が高まったことや、ドラギECB(欧州中央銀行)総裁が追加緩和を示唆したこと、米国の対メキシコ関税発動が見送られたことを受けて、概ね堅調に推移しました。下旬は、米中首脳会談を控え、方向感の乏しい展開となりました。

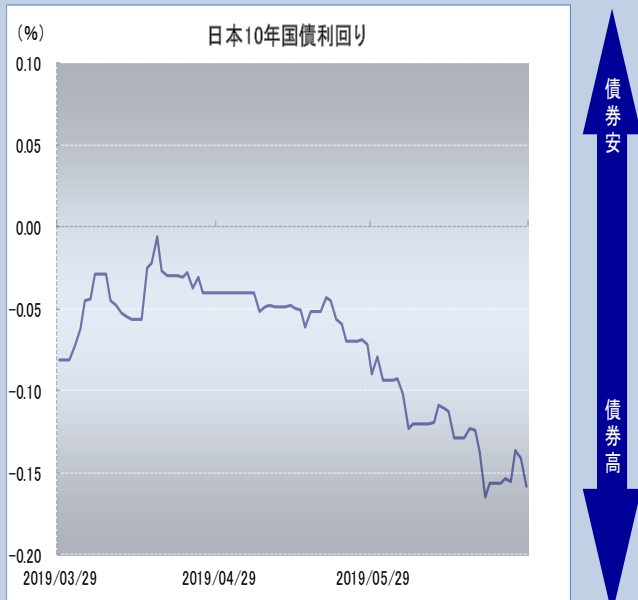


(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

・債券市場

【コメント】

長期金利(10年国債利回り)は低下しました。
 4月は、グローバルな景気減速懸念の後退や米中通商協議の進展期待を背景に上昇基調で推移しましたが、欧州の冴えない経済指標を受けて海外金利の上昇基調が一服すると、国内長期金利は上昇幅を縮小しました。日銀金融政策決定会合では、長短金利を少なくとも2020年春ごろまで低水準に維持する姿勢が明確化されました。
 5月は、米国の対中間税引上げなどにより米中通商協議への警戒感が高まり、金利は低下基調となりました。月末に米国がメキシコに対する追加関税賦課を発表すると、更に低下しました。
 6月は、米国によるメキシコへの追加関税の延期発表や、ECB総裁が追加緩和の可能性について言及したほか、FOMCでも年内利下げの可能性が示唆されたため、金利は低下しました。しかし、月末にかけては、黒田総裁が過度な超長期金利の低下をけん制したことで、金利低下幅を縮小しました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月～金) 9:00～20:00 土日 9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

■当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。■当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したのですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また今後の成果を保証・約束するものではありません。■当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。

まとめレポート

～運用環境振り返り編～

外国株式および外国債券、為替市場 2019年 4月～6月

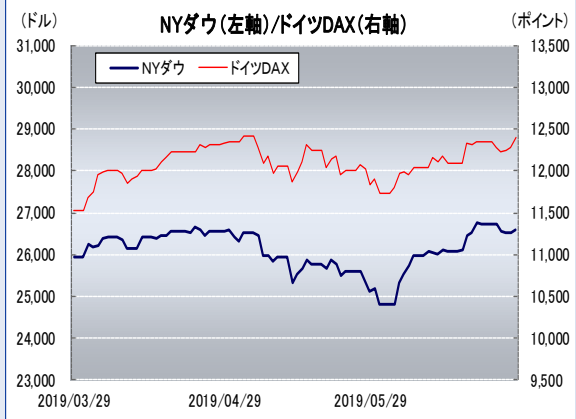
運用先市場の状況

作成基準日 2019年6月28日

○外国市場 ・株式市場

【コメント】

米国株式市場は上昇しました。
4月は、良好な経済指標などを背景に景気への見方が好転したため、米国市場は上昇し、S&P500インデックスは最高値を更新しました。5月は、米国が対中間税引上げや、中国のファーウェイ社との取引禁止を発表したため、米中貿易摩擦の激化懸念が強まり、下落しました。月末は、米国がメキシコに対して輸入関税を強化する方針を示し、一段安となりました。6月は、メキシコへの制裁関税見送りや、FOMCを受けて年内の利下げ観測が高まり、S&P500インデックスは最高値を更新しました。下旬はG20(主要20か国・地域)首脳会合での米中首脳会談を控え、一進一退で推移しました。
欧州株式市場は大幅に上昇しました。
概ね米国と同様の動きでしたが、ドラギECB総裁が追加金融緩和の可能性を示唆したことなどが、株価を押し上げました。



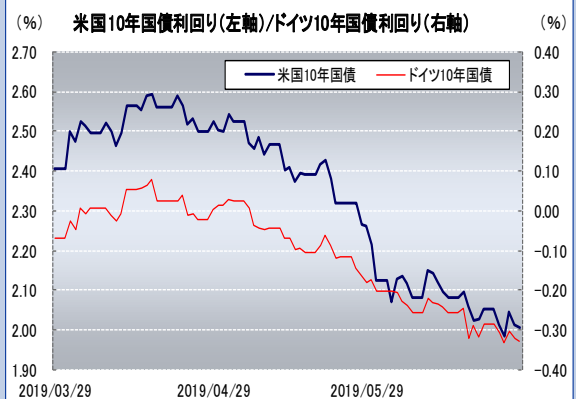
(出所)Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

↑ 株高
↓ 株安

・債券市場

【コメント】

米国長期金利(10年国債利回り)は低下しました。
4月は、米中の良好な経済指標が材料視され、金利は上昇しました。5月は米国の対中間税引き上げの発表で、米中間の貿易交渉に対する不透明感が一段と高まったことで、金利は低下基調で推移しました。6月は、5月末にメキシコへの関税撤廃が発表されたことにより、月初から金利が低下しましたが、無期限での延期が発表されると反発しました。その後は、米中通商問題や、ハト派(景気を重視する立場)的な内容となったFOMCを受けて、金利は低下しました。月末にかけては、G20首脳会合に注目が高まるなか、低位でのみ合い推移となりました。
ドイツ長期金利(10年国債利回り)は低下しました。
イタリアの財政問題やドラギECB総裁のハト派的なコメントなども金利低下要因となりましたが、概ね米国と同様の動きでした。



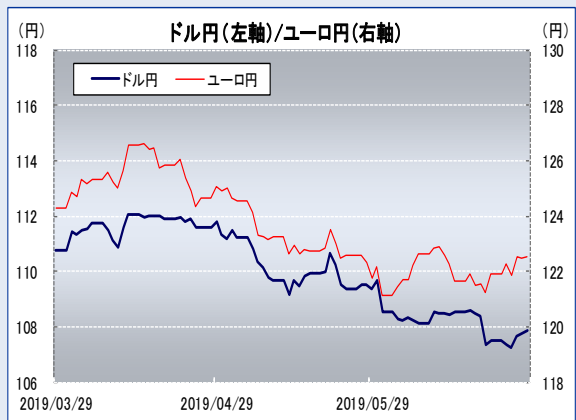
(出所)Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

↑ 債券安
↓ 債券高

○為替市場

【コメント】

米ドル/円、ユーロ/円ともに円高となりました。
4月は、米金利が上昇する局面では、米ドル/円が上昇しました。一方、ユーロ/円は、ユーロ圏の景気に対する懸念が重しとなり、月後半にかけて軟調となりました。
5月は、グローバル経済の悪化に対する警戒感が高まり、円が強含みで推移しました。
6月は、グローバル経済の悪化に対する警戒感が高まる局面では、円が対米ドルで上昇しました。ユーロは、米国と比較して金融政策の緩和余地が限定的との見方から対米ドルで上昇しました。ユーロ/米ドルでユーロ高が進んだことから、ユーロは対円でも上昇しました。



(出所)Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

↑ 円安
↓ 円高

運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月～金) 9:00～20:00 土日 9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

■当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。■当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また今後の成果を保証・約束するものではありません。■当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。